

高齢者施設等における食を中心とした ボランティア

学科・専攻

関西福祉科学大学
福祉栄養学科

担当教員

澤田 崇子、有泉 みずほ

連携先：

柏原市・八尾市等の高齢者施設（令和6年度
は柏原市・東大阪市・太子町の高齢者施設で
連携）

プログラム内容

柏原市・八尾市等の高齢者施設の入所者やその家族に対して、学生が食を中心とした支援を通して、地域の福祉施設のニーズに貢献するとともに、学生自身も高齢者の実態や高齢者施設の役割を知り、今後の学びに活かすことを目的とします。令和6年度の具体的な活動内容は、①高齢者施設でのおやつレクやレクリエーションの手伝い等を通して、要支援・要介護者の方々の食事支援や介助の支援、②施設行事の食事で利用できるメッセージカードや食育だよりの作成を行いました。

成果・考察

当該プログラムは、管理栄養士養成課程の学生にとって、3年から開始される学外実習を高齢者施設で行う機会があるため、事前にボランティアに参加することで円滑に実習が出来ることを期待しています。さらに高齢者施設での要支援・要介護者や施設スタッフとのふれあいの中で、栄養士専門職としての学びやコミュニケーション能力の重要性に気付くことができます。①については2・3年生、延29名が参加しました。「おやつレク」の企画では、初めて高齢者施設に伺い、自身の祖父母以外の高齢者とも初めて会話をする学生が多く、どのような話題が良いか、声掛けの方法を考えながら行っていました。会話が続いたことや笑顔を返して下さったことが嬉しかったなどの感想がありました。「秋祭り」の行事では、地域の幅広い年齢の方と交流が出来、楽しみながら行事を円滑に進める大切さも学ぶことができた、また食べ物販売のスタッフとして活動するなかで、衛生管理に注意することが大切であることを認識する良い機会になった、などの感想がありました。②については2・3年生、21名が参加しました。施設で実施される令和6年クリスマス会用のメッセージカード作成と、令和7年1-12月の食育だより作成（主に偶数月）を行い、施設に届けました。とくに食育便りを1年間利用できるように複数月の作成を行いました。メッセージカードや食育だより作成では、高齢者に喜ばれる内容、見やすさ、季節感、提供する意義、作業効率などを考えて行いました。施設からは、利用者の方はメッセージカードを喜んで部屋に置いておられること、食育だよりは年間で楽しく見れることや見やすく綺麗に作られているなどの感想がありました。未だにコロナ禍以前のように活動が出来ていませんが、少しずつ従来の状況に戻れば、学生の活動の場が増えることが期待できます。



関西福祉科学大学
福祉栄養学科
教授 澤田 崇子

高齢者施設での「おやつレク」企画への参加がコロナ禍以降、数年振りに実施することが出来ました。施設に伺うこと、利用者の方と対面で接することの体験を通して、学生自らがどのように行動すれば良いかを考えるきっかけになったと思っています。人生の先輩である利用者の方の様子や会話から得たことを、心に刻み、他者のためにできることを考える一助になればと願っています。



関西福祉科学大学
福祉栄養学科 2年
田崎 愛李さん

私は高齢者施設におやつレクやレクリエーションの手伝いに参加しました。利用者様との会話を通して、一人ひとりの人生があることを感じました。話の内容が聞き取り難い場面もありましたが、笑顔で接することを心掛けました。また、利用者様に読んでいただく「10月の食育だより」を作成しました。利用者様に見てもらいやすい内容や構成になるようにグループで協力しながら作成することが楽しい経験となりました。